

【クレーム情報】

モール糸のパイル脱落

モール糸は、特有の構造による外観と感触から秋冬物の衣料に使用されることの多い素材ですが、特有の構造ゆえの問題も抱えています。今回は、モール糸のパイルが脱落した事例を紹介します。

■事故の状態

クリーニングに出したらセーターの右肩から左腰にかけて周りの色と違うような感じになった。アイロンで焦がし、傷をつけたのではないかと申し出があったもの。色が違って見える部分はモール糸のパイルが脱落して、芯糸が露出した状態になっている。

■事故の防止対策

モール糸の製造に関しては、摩擦などの物理的作用に対してパイルが抜けないように十分な強度を持たせることが望まれる。クリーニングの受付時には十分な点検を行うとともに、利用者にはパイルが脱落する可能性があることを説明し、了解を得た上で処理することが必要。

■原因

着用やクリーニング処理での物理的作用が原因でパイルが脱落したもの。確認はできないが、クリーニング前にすでに着用摩擦でパイルが脱落しかけた状態となっていたところに、クリーニングの作用が加わりパイルが完全に脱落した可能性や、摩擦などに対するパイルの強度に問題があった可能性なども考えられる。

■モール糸

ファンシーヤーン（飾撚糸）の一種。JISではシェニール（フランス語で毛虫のこと）糸と呼んでいる。パイルになる糸を巻き付けた二本の糸（押さえ糸と芯糸）を撚り合わせ、さらに巻き付けた糸をカットしてパイルにしてできあがる。パイルは脱落しないよう熱融着繊維を使って接着する。熱融着繊維に使用される樹脂の量が多いほどパイルの脱落防止効果が高くなる。

しかし、樹脂の量が少なくなるとモール糸の風合いが硬くなることから使用量が制限され、パイルの脱落を完全に防止することは困難な状況にある。また、海外の製品には、風合いを重視するために熱融着繊維の樹脂が極端に少ない製品もあるとのこと。

モール糸を使用した製品をクリーニングする際は裏返して目の細かなネットに入れ、機械的作用をできる限り加えないようソフトな洗いおよび乾燥を行うことが必要。

メーカーによっては、モール糸の注意事項を「ドライクリーニングの際はネットを使用する」「モール糸は、独特な風合いを持たせるため、毛羽が抜けやすい構造をしている」「ベルトやバッグなどが長時間同じ所に当たっていると、毛が倒れたり抜けやすくなる」「糸がすべりやすく、引き出されやすい」などの付記表示としているものもあり、クリーニングでの取扱いや利用者への説明資料として有効に活用したい。



写真1 紳士用セーター

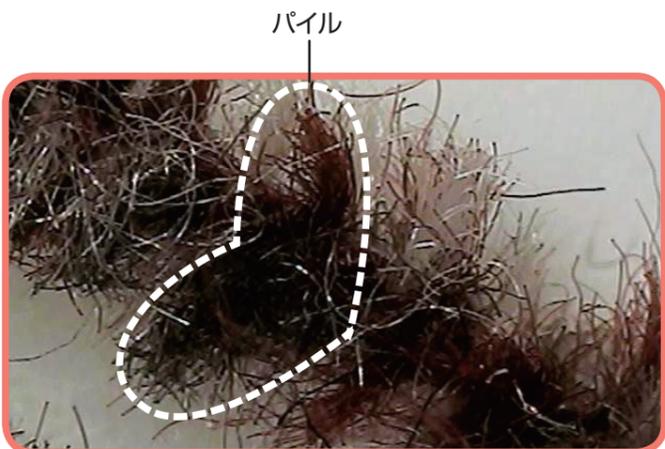
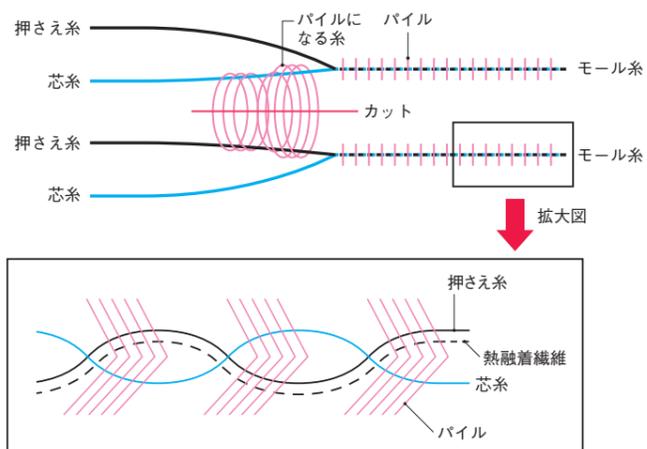


写真3 正常なモール糸の拡大写真。2本の糸でパイルを挟み込んだ構造になっている



写真2 右肩から左腰にかけて带状にモール糸のパイルが脱落して、芯糸が露出した状態になっている



図表1 モール糸の構造の詳細

- 品名…紳士用セーター
- 素材…アクリル 56%、綿 22%、ポリエステル 22%
- 取扱い絵表示…
- 処理方法…石油系溶剤でのドライクリーニング、加熱静止乾燥、スチーム仕上